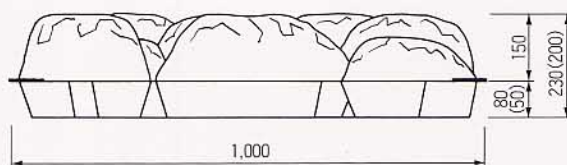
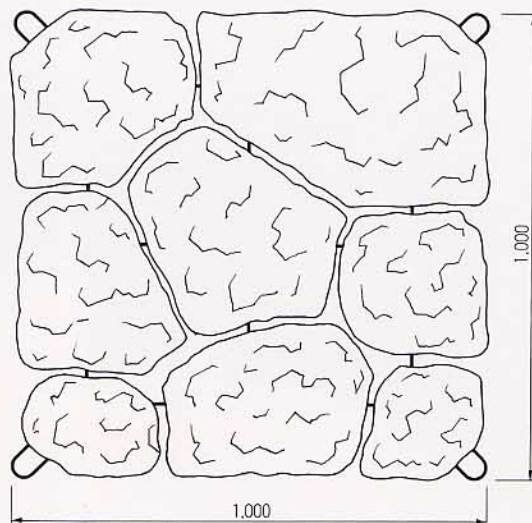


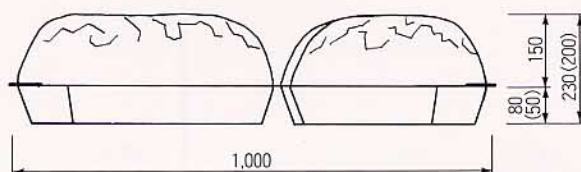
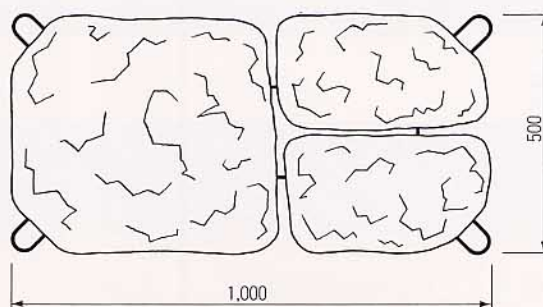


A形



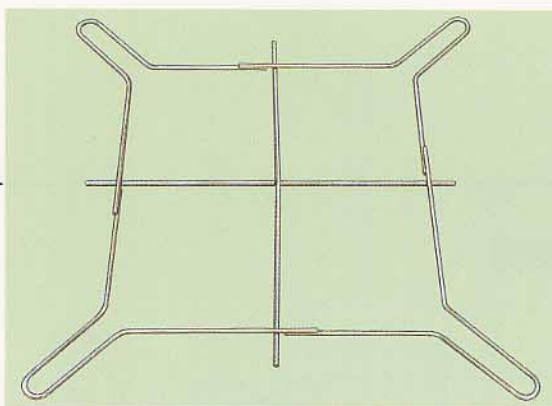
※()内は300型です。

B形

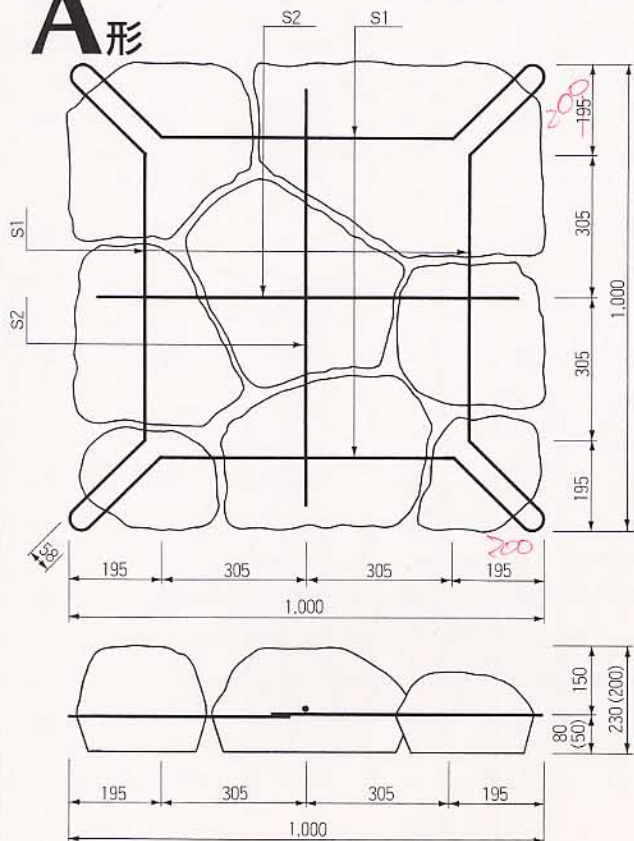


※()は300型です。

配筋図



A形



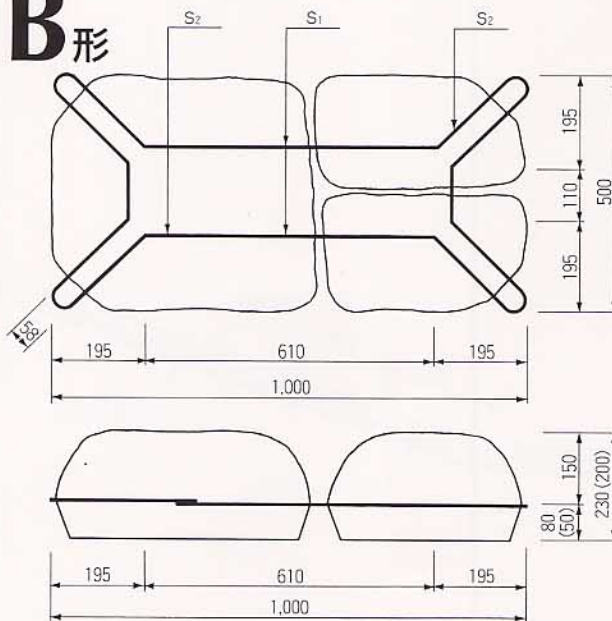
※()内は300型です。

配筋表

記号	径 (mm)	長さ (m)	本数	総長 (m)	単位質量 (kg/m)	質量 (kg)
S1	φ8	1.17	4	4.68	0.392	1.834
S2	φ8	0.90	2	1.80	0.392	0.705
計						2.53

※配筋は溶融亜鉛-10%アルミニウム合金めっき鋼線です。

B形



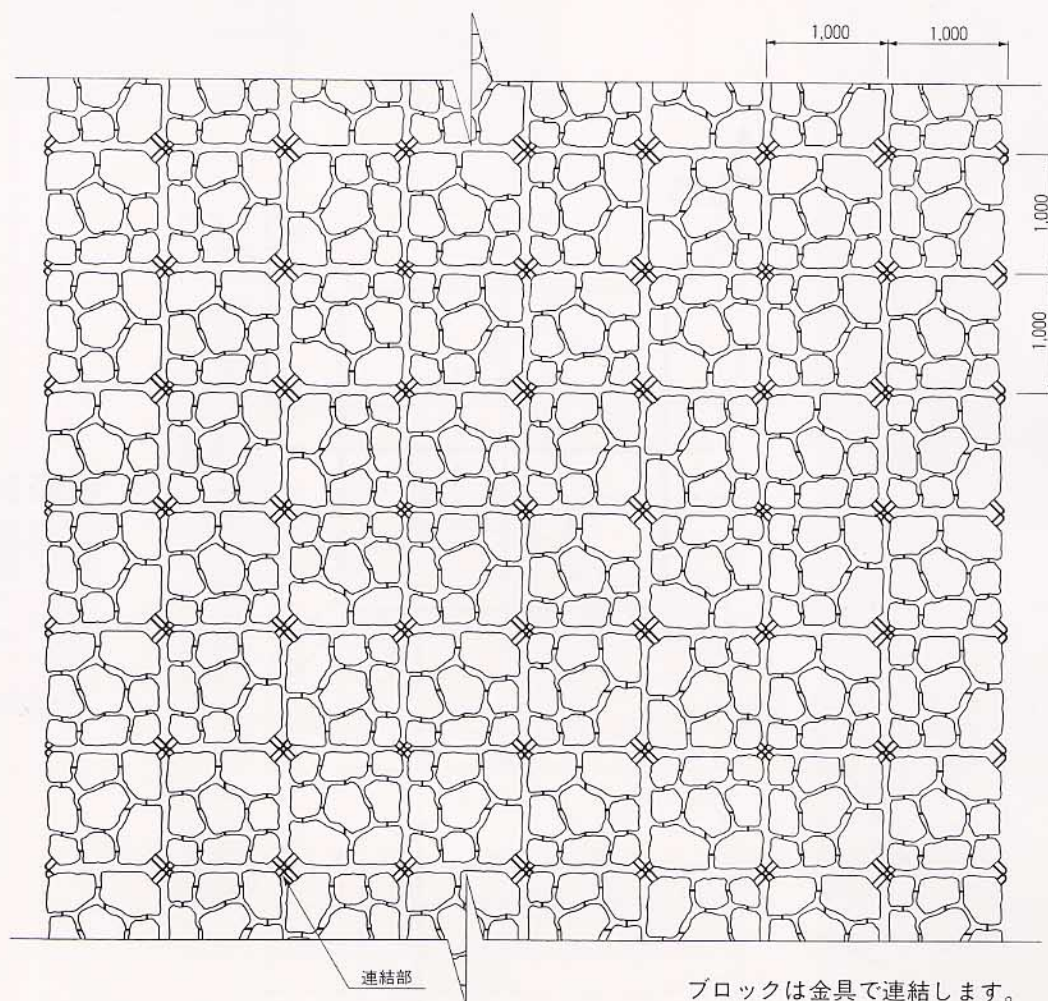
※()内は300型です。

配筋表

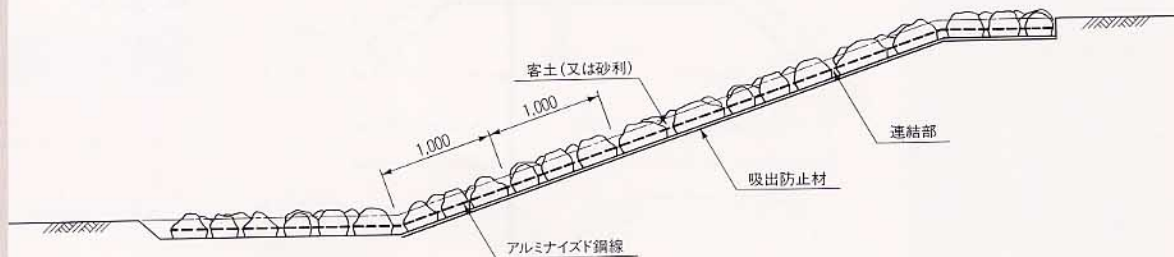
記号	径 (mm)	長さ (m)	本数	総長 (m)	単位質量 (kg/m)	質量 (kg)
S1	φ8	1.11	2	2.22	0.392	0.870
S2	φ8	0.73	2	1.46	0.392	0.572
計						1.44

※配筋は溶融亜鉛-10%アルミニウム合金めっき鋼線です。

展開図

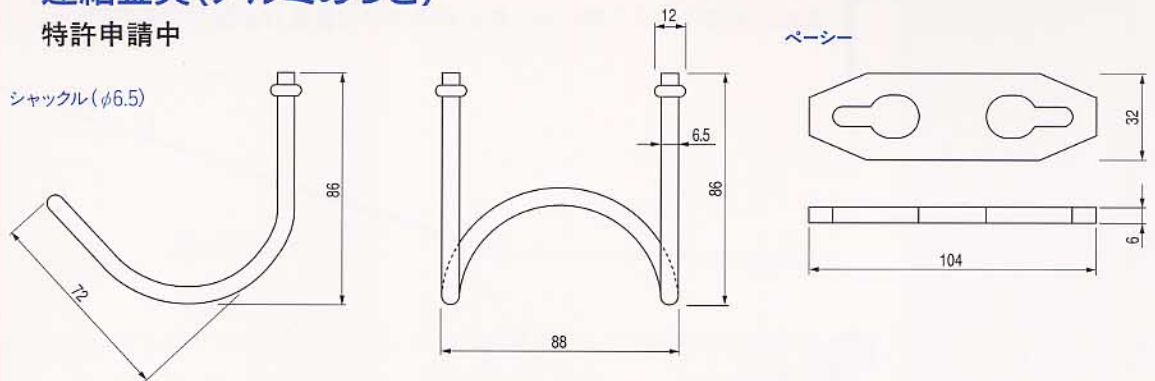


標準断面図



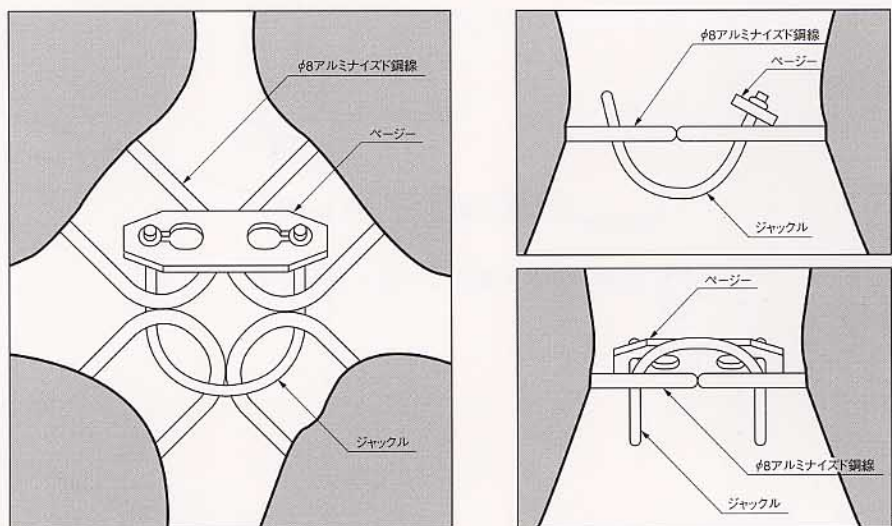
連結金具(アルミめっき)

特許申請中



※1組の連結金具により、ブロック目地寸法(延長方向または法方向)30mmまでの連結が可能です。

詳細図



連結金具の総質量は0.20kg/組

■ 数量算出

数量算出式

◎法覆長 S (m)、施工延長 L (m) の場合

所要ブロック数 $N = S \cdot L$

連結金具 $N = (S + 1)(L + 1) - 4$

[計算例]

法覆長8m、施工延長50mの場合

ブロック数 $N = 8 \times 50 = 400$ 個

連結金具 $N = (8 + 1)(50 + 1) - 4 = 455$ 組

客土量 V (300型) $= N \cdot 0.063$

V (360型) $= N \cdot 0.073$

客土量 V (300型) $= 400 \times 0.063 = 25.20 \text{ m}^3$

V (360型) $= 400 \times 0.073 = 29.20 \text{ m}^3$

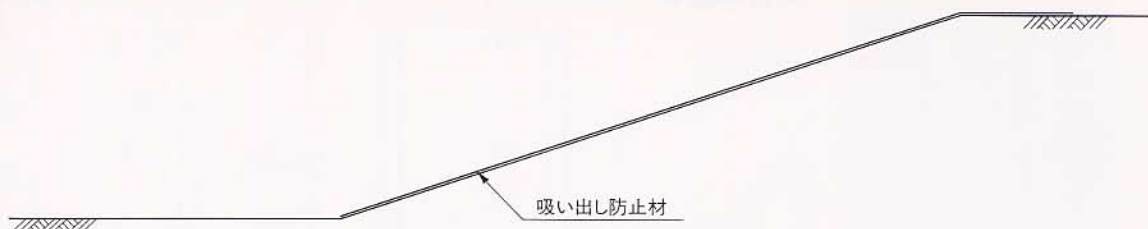
数量算出例(延長50m当り)

区 分		単位	施 工 延 長 50.00 m										
法 覆 長	m		5.00	6.00	7.00	8.00	9.00	10.00	11.00	12.00	13.00	14.00	15.00
施 工 面 積	m ²		250.0	300.0	350.0	400.0	450.0	500.0	550.0	600.0	650.0	700.0	750.0
ブ ロ ッ ク	個		250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750
連 結 金 具	組		302	353	404	455	506	557	608	659	710	761	812
客 土 量	300型	m ³	15.75	18.90	22.05	25.20	28.35	31.50	34.65	37.80	40.95	44.10	47.25
	360型	m ³	18.25	21.90	25.55	29.20	32.85	36.50	40.15	43.80	47.45	51.10	54.75

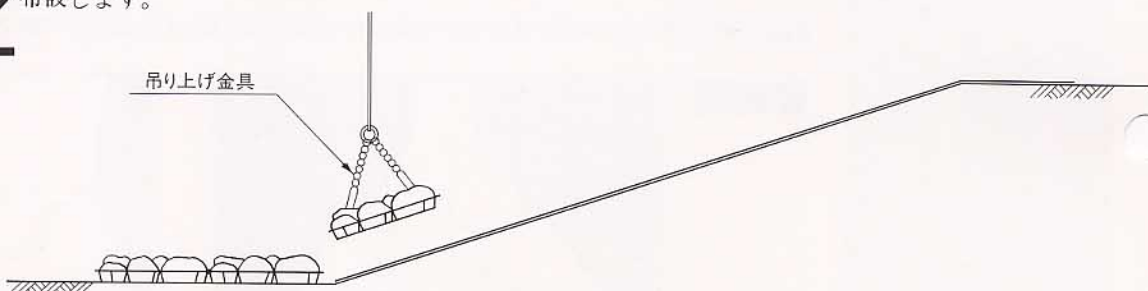
※客土量はブロック高までとして算出しています。

■ 施工要領

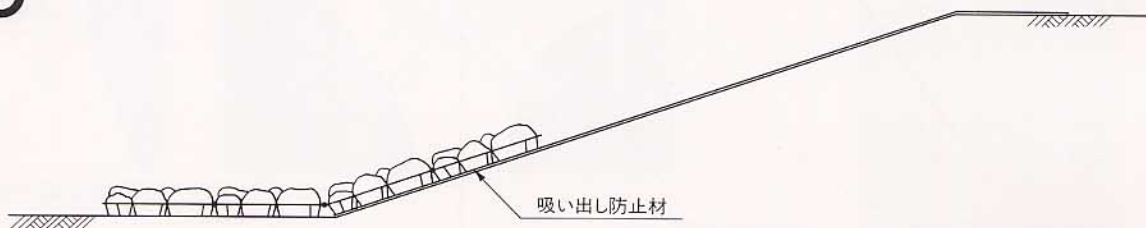
- 1 法面を所定の勾配に整地します。
また、必要に応じて吸い出し防止材あるいは裏込材を施工します。



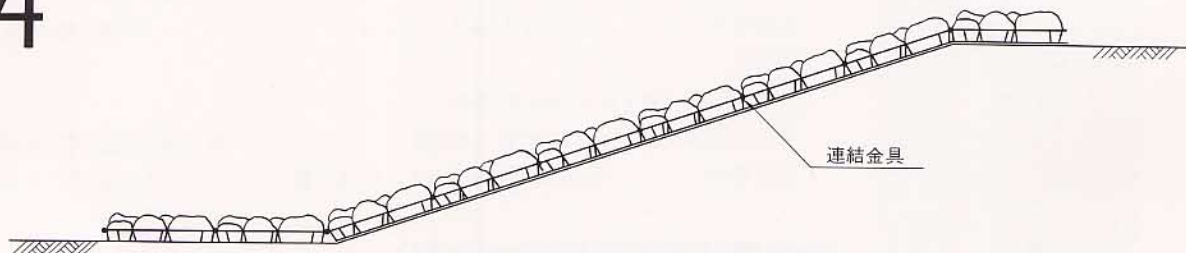
- 2 吊り上げ金具をブロックに装着し、クレーンによりブロックを法勾配に合わせて吊り上げ、布設します。



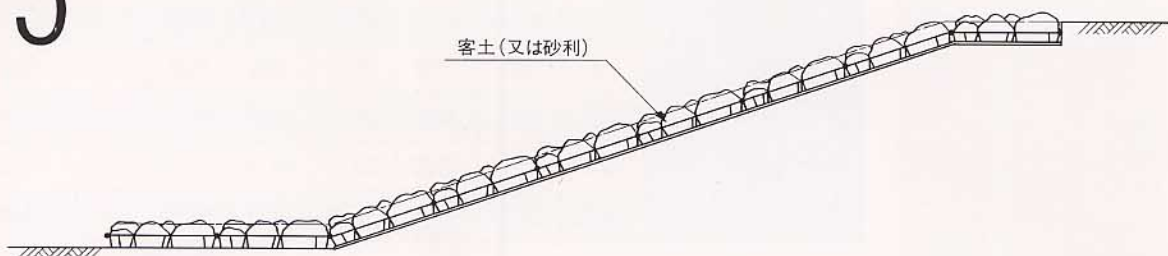
- 3 同様の作業を順次くり返し行います。



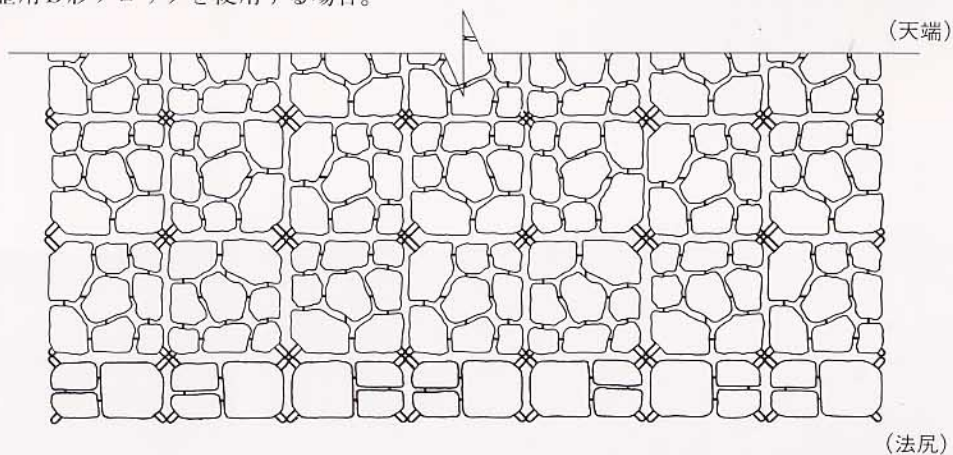
- 4 ブロックを所定数配列後、相互のブロックを連結金具で連結します。



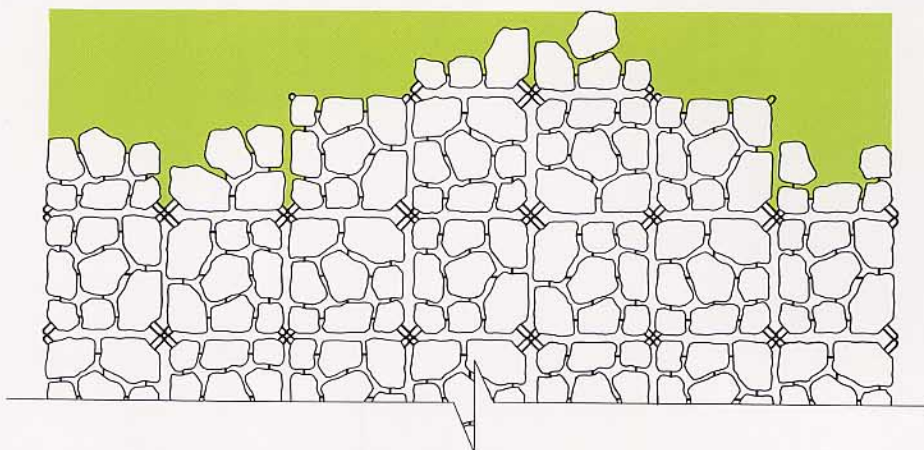
- 5 必要に応じて、ブロック空隙部に客土あるいは砂利等を充填します。



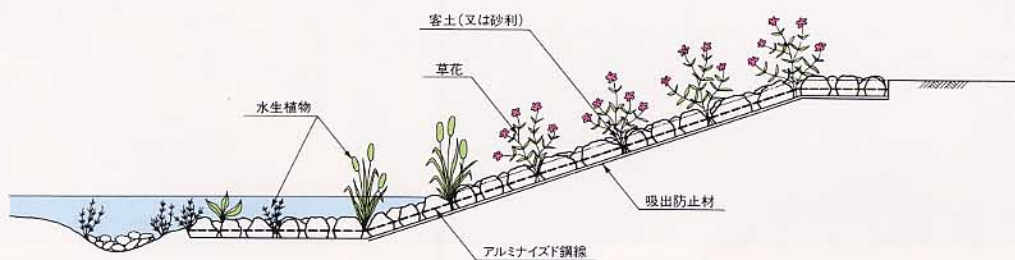
1 法長調整用B形ブロックを使用する場合。



2 護岸の天端はV字型の窪みを周期的に配列し、植栽の緑でやわらげて護岸の輪郭線をあいまいにぼかす施工例。



3 法面から河床部にかけて、連続して布設する事により法面をより自然に近い状態にする事ができます。



4 数段積重ねることによって、魚介類・水生昆虫の生息場所を提供し動植物にやさしい水辺空間をつくり出します。

